

# 調査報告概要表

作成日 2008年10月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4670103268
法人名	社会福祉法人恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム 武岡ハイランド
所在地 (電話番号)	鹿児島市小野町2427-2 (電話)099-283-7231
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年10月5日

## 【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤 7 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 15 人	

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4)利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.9 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	済生会鹿児島病院、植村病院、島田内科病院、パールランド病院、横山記念病院、整形外科横山病院、下田平歯科病院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の武岡・明和二つの大型団地に隣接した高台に位置し、周囲に緑が残る閑静な場所に建てられている。同法人の施設や通所事業所、訪問看護ステーションが同一敷地内にあり、地域福祉の拠点としての協力体制が整っている。利用者は、デイサービスセンターとの交流をはじめ、天然温泉の露天風呂や畑作業等を楽しみ、穏やかな笑顔で過ごす姿が印象的である。管理者・スタッフは、「自分が住みたいと思うようなホーム」を目指し、日々のケアにあたっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価後の取り組みとして、「地域密着型サービスの理念」を新たに加え職員間での共有もなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、評価の意義について理解しており、自己評価もホーム全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の代表者や利用者家族、法人関係者等の出席により定期的に開催されている。行事などの活動報告や質問意見交換が行われているが、行政関係者の出席は認められない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員に対して何でも話せる雰囲気作り努めており、職員側から声かけをして意見要望について尋ねるようにしている。また、家族アンケートを実施し運営へ反映している。家族にも運営推進会議やサービス担当者会議に出席してもらっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域文化祭や校区運動会への参加を通して地域との交流を図っている。夏祭りや敬老会では、園児等を招待しふれあいを楽しんでいる。立地として、近辺に一般住宅がないため、隣接する同法人施設や通所事業所との交流を行っている。

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考え「住み慣れた地域の中で互いに支えあい、安心して過ごせるように」という内容を新たに追加した理念となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議時に理念について確認しあうとともに共有に努め、理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域文化祭や校区運動会への参加を通じて交流を図っており、夏祭りや敬老会等では幼稚園児・地域の方々を招待してふれあいを楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員一人ひとりが行い、スタッフ会議にて全員で自己評価のまとめに取り組んでいる。前回指摘を受けた項目についても話し合わせ、「地域密着型サービスとしての理念」も作成されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人関係者や地域の代表者、利用者家族の出席のもと、活動状況報告並びに意見交換を行っているが、行政関係者の出席はなく特に出席要請もしていない。	○	運営推進会議は、報告や情報交換にとどまらず、幅広い立場の人が参加し、それぞれの見地からサービス向上についての意見をもらうことが大切である。行政関係者の毎回の出席は困難としても、参加してもらえるよう積極的に働きかけていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険担当課、生活保護関係機関と連絡や情報交換を行いながら、ともに問題解決に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ふれあい通信」(ホーム便り)にて利用者の暮らしぶりや行事予定を知らせており、健康状態等は必要に応じて連絡している。家族の面会時には金銭管理報告をし、職員紹介もその都度行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には意見や苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めるとともに、電話でも意見や要望をもらっている。また、家族アンケートを実施し意見や要望を求め、運営やサービスの質の向上に役立っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、勤務時間内に法人内研修や外部研修の参加をし、働きながら資格取得することをバックアップしてもらっている。しかし、職員の経験や段階に応じた研修計画は作られておらず、職員各自に応じた研修やケアの評価が行われているとは言い難い。	○	各自の立場、経験や習熟度の段階に応じた学びの機会を事業所として計画的に確保する必要がある。今後は、質の確保・向上を図るためにも段階的な研修計画を立て、職員の育成に取り組んでいって欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームと合同レクリエーションを行ったり、職員研修や親睦の場をつくることで交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にはできるだけホームの見学をしてもらうほか、家族等の相談に乗れるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活歴や経験を考慮し、家事や作品づくりなどの様々な場面において支えあう関係を築いている。また、畑仕事をともに行う中で収穫の喜びを分かち合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で思いや意向の把握を行い、生活歴を記録し職員の共通理解が図れるように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から定期的に意見要望を聞き、計画作成担当者を中心に職員や関係者と個別介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じて必要時は介護計画の見直しを行っている。モニタリングは毎月行い、評価は3ヶ月ごとにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診介助や理髪などの外出支援をはじめ、希望によりホーム外での行動も支援するようにしている。家族宿泊時は食事や入浴等のサービスの準備もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にし、必要時は協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、必要に応じて利用者や家族と話し合っているが、ホームとしての対応可能基準や職員への周知については明確にされたものはない。	○	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応については、サービス開始時から本人や家族等と話し合う必要がある。その為にも、事業所の方針を文書等にて明確にし全員で共有して、利用者や家族が安心してサービスを利用できるようにしていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員会議の折に言葉かけや対応について注意を促し、職員は排泄介助や様々な支援場面で利用者に対して配慮を行っている。個人の記録物も適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の「その人らしさ」を考えながらケアすることに努め、一人ひとりのペースや希望を取り入れるようにしている。畑仕事や散歩、アルコール摂取など利用者に合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配下膳を能力に応じてしてもらい、職員も同じテーブルにつき介助をしながら和やかな雰囲気の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定は特にしておらず毎日でも入浴可能であり、時間帯も決めていない。隣接する通所サービスの温泉に入りに行くこともあり、露天風呂を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、食事準備をはじめ掃除や洗濯などの様々な家事を行い、それぞれの役割を楽しんでいる。また、温泉入浴や畑作業で気晴らしを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、畑作業など日常的に屋外に出るほか、隣接する通所サービスへも出かけて行き行事参加を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した定期避難訓練を行うとともに、職員が新しく入るごとに訓練をしている。法人敷地内の隣接施設への協力も依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士に献立のバランス等を確認してもらい、食事内容についての指導をもらっている。利用者の状態により食事形態を必要に応じて変えており、食事摂取量や水分摂取量の個別記録もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感のある明るい家庭的な室内となっており、利用者が作成した作品や花に囲まれ、季節を感じられる場所となっている。利用者は共有空間を自由に行き来し、居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏具、趣味の品など利用者の馴染みの道具が持ち込まれており、心地よい空間となっている。		